

Kansai Economic Insight Monthly

2019/11/22

Vol.79 October/November

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 研究統括兼数量分析センター長)、KARAVASILEV Yani (APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)、Cao Thi Khanh Nguyet(関西学院大学講師)、野村亮輔、車競飛(APIR インターン)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を公表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要旨

- 景気は足下悪化・先行きは下げ止まりの兆し※ -

- ✓ 9月の生産(季節調整値)は2カ月ぶりの前月比プラス。7-9月期は3四半期ぶり前期比上昇。近経局は生産の基調判断を「生産は緩やかな持ち直しの動きに一服感」と前月から据え置いた。
- ✓ 10月の貿易収支は5カ月連続の黒字だが、輸出入とも前年同月比マイナスとなった。貿易総額は昨年台風からの反動が見られた本年9月を除けば、2018年12月から連続で縮小している。
- ✓ 10月景気ウォッチャー現状判断DIは39.9と、3カ月ぶりに前月比悪化。消費増税前の駆け込み需要の反動減が家電や生活雑貨等を中心にみられる。
- ✓ 8月の関西2府1県のコア賃金指数は2カ月ぶりに前年比減少し、実質賃金も6カ月連続で同減少した。
- ✓ 9月の大型小売店販売額は駆け込み需要の影響で前年を大幅に上回った。業態別に見れば、百貨店では前回並みの駆け込み需要がみられたが、スーパーでは限定的であった。
- ✓ 9月の新設住宅着工戸数は2カ月連続で前年比減少。持家と分譲は増加したが、貸家は大幅に減少した。結果、7-9月期は2四半期連続の前期比マイナスとなった。
- ✓ 9月の求人倍率は高水準を維持しているが、新規求人数は減少している。完全失業率は4カ月ぶりの悪化となった。
- ✓ 9月の建設工事出来高は前年同月比19カ月連続で増加。結果、7-9月期は前年同期比6四半期連続の増加となった。10月の公共工事請負金額(季節調整値)は2カ月ぶりに前月比大幅増加した。
- ✓ 10月の関空の外国人入国者数は前年比+0.2%と小幅増にとどまった。国籍別(8月)に見ると、中国は11カ月連続、台湾は2カ月連続の前年比増加だが、香港は2カ月、韓国は15カ月連続で同減少した。
- ✓ 10月製造業PMIは2カ月ぶりの悪化で49.3となり、工業生産は減速している。貿易総額が6カ月連続縮小、国内消費と固定資産投資の伸びが減速するなど、景気の先行き不安が強まっている。

【関西経済のトレンド】

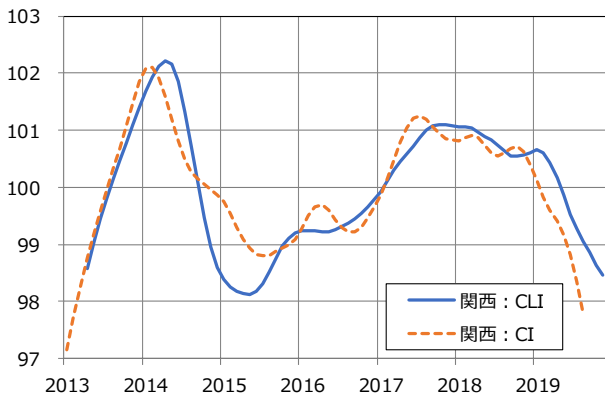
	2018年			2019年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生産	↑	↓	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↑	
貿易	→	↓	↓	↓	↑	↓	↓	↓	→	→	↑	↑	↑
センチメント	↑	→	↓	↓	↑	↓	→	↓	→	↓	↑	↑	↓
消費	→	↓	→	↓	↓	→	→	→	→	↓	→	↑	
住宅	↓	→	↑	↑	→	↑	↓	↓	→	↑	↓	↓	
雇用	↓	↓	↓	↓	↑	→	↑	↓	↓	↓	↓	→	
公共工事	↓	↑	↓	↑	↑	↓	→	↑	↑	→	↑	↑	↑
中国	↓	↓	↓	↓	↓	→	↓	↓	→	↓	↓	→	↓

(*トレンドの判断基準)

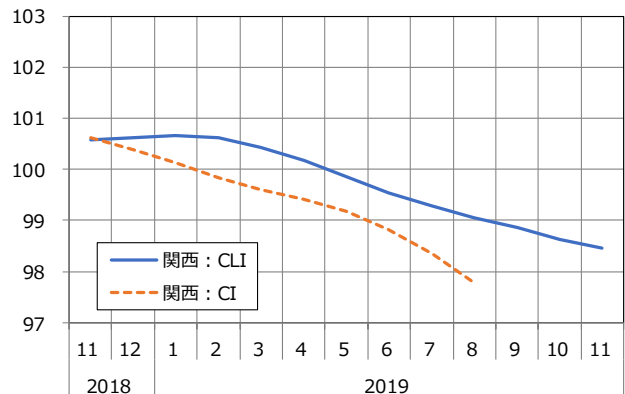
- ・**生産**：近畿経済産業局『近畿地域域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2013年1月～2019年11月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2018年11月～2019年11月)



【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

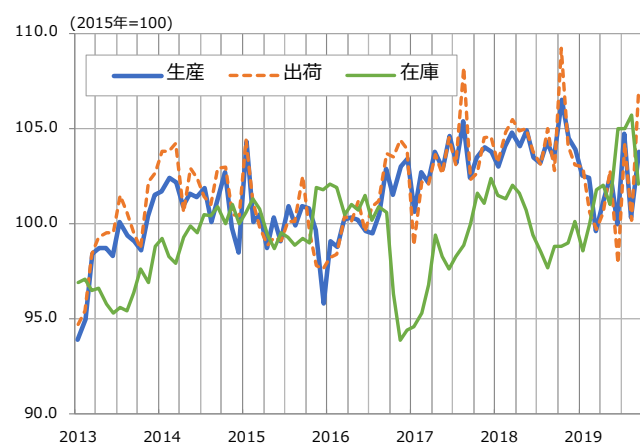
関西9月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は103.8で前月比+3.5%、出荷は106.8で同+6.6%と、それぞれ2カ月ぶり大幅増加した。在庫は102.1で、同-3.4%と4カ月ぶりに減少。近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は緩やかな持ち直しの動きに一服感」と前月から据え置いた。

結果、7-9月期の生産は、前期比+1.6%増加し(4-6月期は前期比-0.2%)、3四半期ぶりに増加した。

9月の生産指数を業種別にみると増産となったのは、生産用機械工業(前月比+26.4%、2カ月ぶり)、プラスチック製品工業(同+7.3%、2カ月ぶり)、電子部品・デバイス工業(同+8.0%、2カ月ぶり)等であった。一方、減産となったのは、金属製品工業(同-16.7%、2カ月ぶり)、電気・情報通信機械工業(同-8.9%、2カ月連続)、石油・石炭製品工業(同-8.6%、2カ月ぶり)等であった。

なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、9月(確報値)は113.7で、前月比+7.5%と2カ月ぶりのプラス。

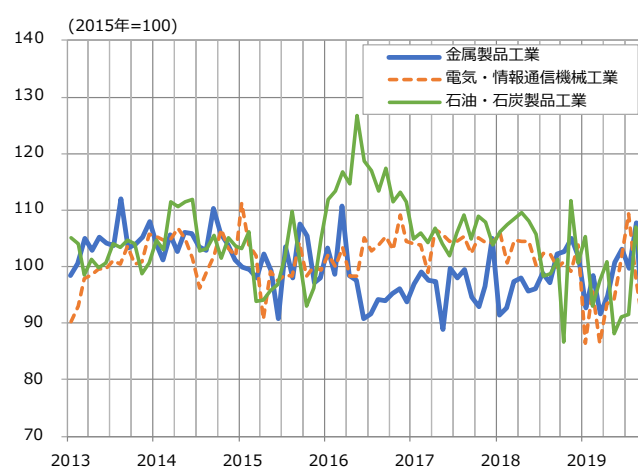
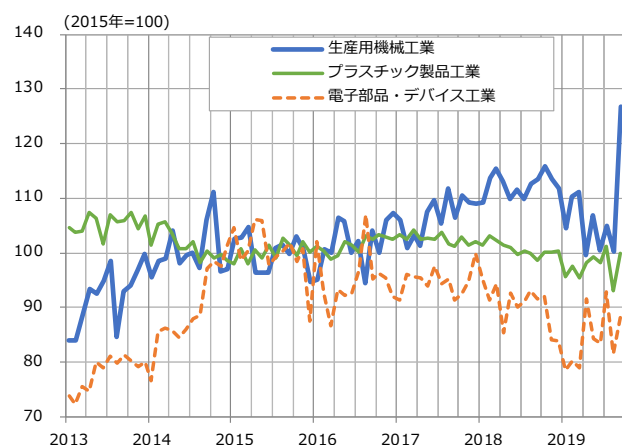
関西の鉱工業生産動向の推移(2013年1月~2019年9月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013年1月~2019年9月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

全国9月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2015年=100)を見ると生産は103.2で前月比+1.7%、出荷は102.7で同+1.5%と、それぞれ2カ月ぶりに上昇した。在庫は102.9で同-1.4%と、3カ月連続で低下した。

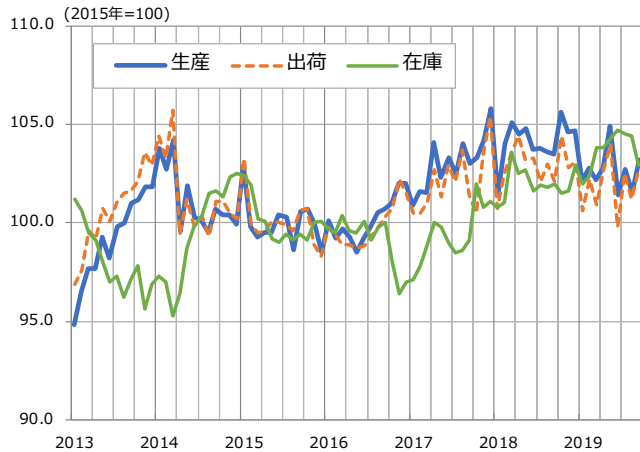
9月の生産指数を業種別にみると、汎用・業務用機械工業(前月比+9.6%)、生産用機械工業(同+8.0%)、電気・情報通信機械工業(同+4.3%)等が増産となった。一方、化学工業(除、無機・有機化学工業)(同-5.4%)、自動車工業(同-1.3%)、電子部品・デバイス工業(同-1.8%)等が減産となった。

結果、7-9月期の生産は前期比-0.5%減少し(4-6月期は前期比+0.7%)、2四半期ぶりに減少した。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、10

月は前月比+0.6%と増産が、11月は同-1.2%と減産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月~2019年9月)



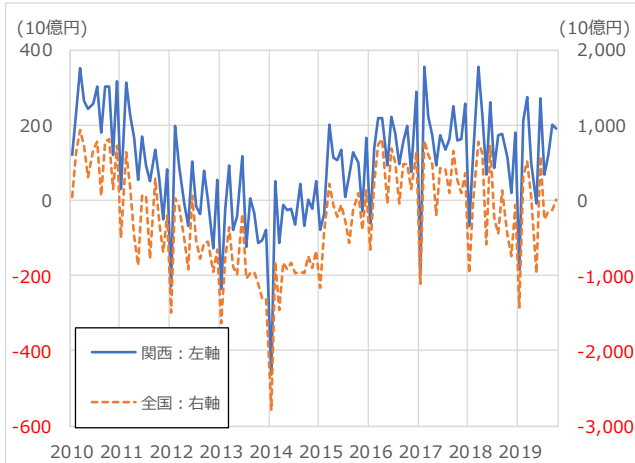
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西10月の貿易収支は+1,903億円と5カ月連続の黒字となった。輸出額は2カ月ぶりの前年同月比マイナス。輸入額も2カ月ぶりの同マイナスとなった。輸出入の合計である貿易総額は同-10.8%と2カ月ぶりに縮小した。しかし、昨年9月は大型台風の影響で関西国際空港が一時閉鎖された。そのため、反動増がみられる本年9月の高い伸びを除けば、2018年12月から貿易総額は縮小している。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月~2019年10月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

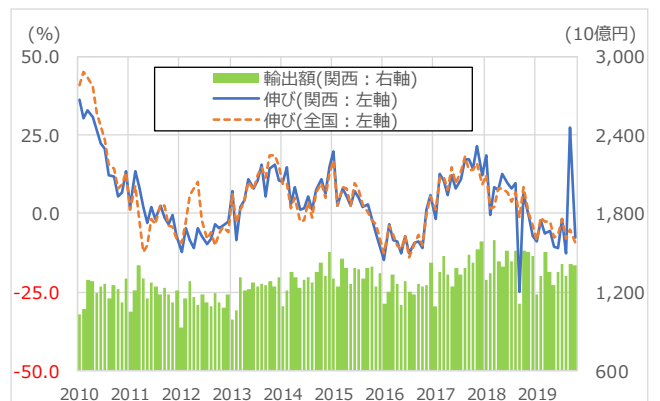
また、全国10月の貿易収支(速報値)は+173億円となり、4カ月ぶりの黒字となった。貿易総額は6カ月連続で縮小している(前年同月比-12.1%)。

(2) 輸出

関西10月の輸出額(速報値)は1兆3,984億円で前年同月比-7.8%と2カ月ぶりのマイナス。財別にみれば、主に鉄鋼と原動機が減少した。なお、半導体等電子部品の輸出額は同+21.5%、10月として過去最高額となった。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、10月(速報値)は108.6となり前月比-4.5%減少し、2カ月ぶりのマイナス。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月~2019年10月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

全国10月の輸出額(速報値)は6兆5,774億円で、前年同月比-9.2%と11カ月連続の減少。財別にみれば、主に自動車、原動機、鉄鋼等が減少した。

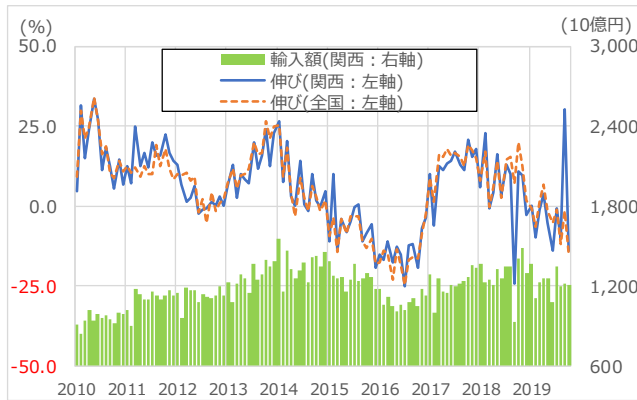
(3) 輸入

関西10月の輸入額(速報値)は1兆2,081億円で、前年同月比-13.9%と2カ月ぶりに減少した。財別にみれば、天然ガス及び製造ガス、通信機等が減少した。

日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、10月(速報値)は98.5となり、前月比-4.9%減少し、2カ月ぶりのマイナス。

全国 10 月の輸入額(速報値)は 6 兆 5,601 億円で、前年同月比-14.8%と 6 カ月連続の減少となった。財別にみれば、原油、液化天然ガス、石油製品等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2019年10月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料 :近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西 10 月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+1,971 億円で 9 カ月連続の黒字となった。前年同月比でみると黒字幅は+43.8%と 2 カ月連続で大幅に拡大した。輸出額(9,301 億円)は同-5.4%と 2 カ月ぶりに減少した。財別にみれば、鉄鋼、通信機等が減少した。輸入額(7,330 億円)も同-13.3%と 2 カ月ぶりの減少となった。主に通信機、衣類及び同附属品等が減少した。

うち、対中貿易収支は-392 億円と 4 カ月連続の赤字となった。赤字幅は前年同月比-63.0%縮小した。輸出額(3,522 億円)は同-9.8%と 2 カ月ぶりに減少。財別にみると、通信機、原動機等が減少した。輸入額(3,914 億円)も同-21.2%と 2 カ月ぶりに減少した。財別にみると、通信機、衣類及び同附属品等が減少した。

対米貿易収支は+1,071 億円の黒字となった。黒字幅は前年同月比-10.8%縮小した。輸出額(2,101 億円)は同-14.0%と 2 カ月ぶりの減少。財別にみれば、遊戯用具、電池等が減少した。輸入額(1,030 億円)は同-17.0%と、3 カ月ぶりの減少。財別にみれば、半導体等製造装置、有機化合物等が減少した。

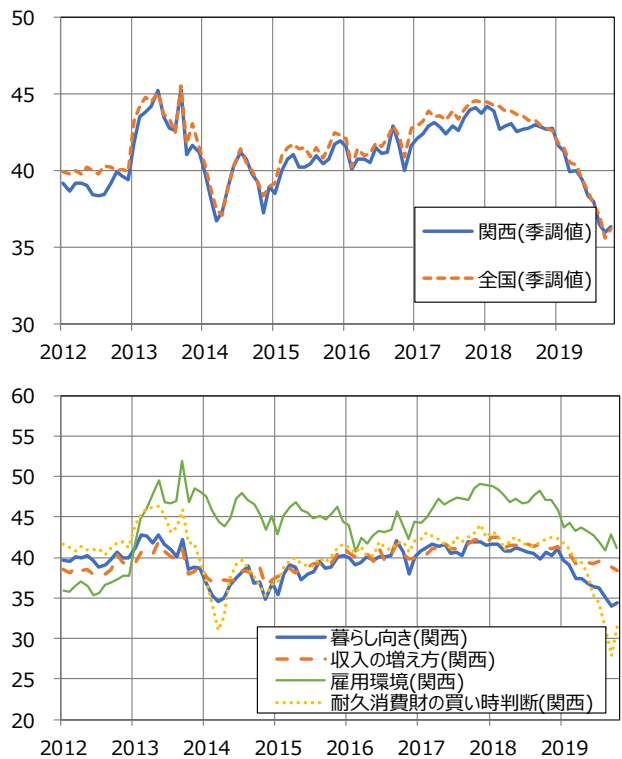
対 EU 貿易収支は+106 億円と 2 カ月ぶりの黒字となった。輸出額(1,499 億円)は前年同月比-6.2%と、3 カ月ぶりの減少。財別にみれば、原動機、建設用・鉱山用機械等が減少した。輸入額(1,393 億円)は同-10.7%と、2 カ月ぶりの減少。財別にみれば、非鉄金属、医薬品等が減少した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西 10 月の消費者態度指数(季節調整値 : APIR 推計)は 36.3 と前月比+0.4 ポイント上昇し、6 カ月ぶりに改善した。同指数構成項目の内訳をみると、耐久消費財の買い時判断指数(31.6)は前月比+3.6 ポイントと、11 カ月ぶりに改善。暮らし向き指数(34.4)は同+0.4 ポイントと、6 カ月ぶりに改善した。一方、雇用環境指数(41.1)は同-1.7 ポイントと、2 カ月ぶりに悪化。収入の増え方指数(38.4)は同-0.4 ポイントと、3 カ月連続で悪化した。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2019年10月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

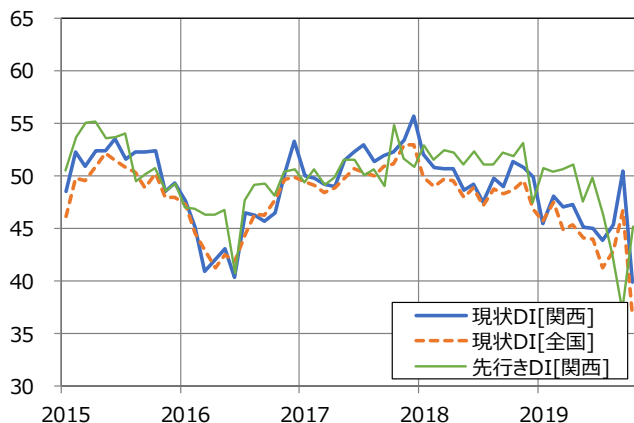
全国(季節調整値)は36.2と前月比+0.6ポイント上昇した。2017年12月以降横ばい含めてマイナスが続いていたが、23カ月ぶりに前月を上回った。増税後の不安感が薄れ、向こう半年間の暮らし向きが改善するとの見方が見られるようである。同指数構成項目4指標のうち3指標が上昇した。内訳をみると、耐久消費財の買い時判断指数(31.0)は前月比+2.9ポイントと、10カ月ぶりの改善。暮らし向き指数(34.5)は同+0.6ポイントと、6カ月ぶりの改善。収入の増え方指数(38.8)は同+0.1ポイントと、2カ月ぶりの改善。一方、雇用環境指数(40.6)は同-0.9ポイントと、6カ月連続で悪化した。結果、内閣府は基調判断を「弱まっている」と8カ月連続で据え置いた。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西10月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は39.9と前月比-10.5ポイント大幅低下した。東日本大震災の発生した2011年3月以来の低水準である。消費増税前の駆け込み需要の反動減が家電や生活雑貨等を中心にみられる他、増税の影響を受けにくい食品についても販売額の減少がみられるようである。

全国の同指数は36.7と前月比-10.0ポイント大幅低下し、3カ月ぶりに悪化した。消費増税前の駆け込みが剥落したことに加え、台風などの自然災害の影響が景況感を押し下げたようである。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月~2019年10月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

先行き判断DI(季節調整値)は、関西で45.1と前月比+7.9ポイント上昇し、4カ月ぶりに改善。消費増税の反動減が縮小し、堅調なインバウンド需要による下支え効果に期待する声もみられるようである。

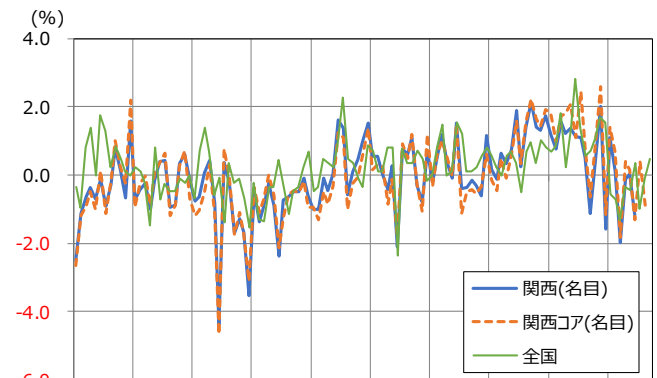
全国は前月比+6.8ポイント上昇し43.7と4カ月ぶりに改善した。

【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

8月の現金給与総額を公表府県別に見ると、兵庫県が前年同月比+1.6%(25カ月連続)、滋賀県が同+0.9%(2カ月ぶり)と、それぞれ増加した。一方、和歌山県は同-6.2%(2カ月ぶり)、大阪府は同-2.0%(6カ月連続)、京都府は同-1.6%(2カ月ぶり)とそれぞれ減少した。京都・大阪・兵庫の加重平均をとった8月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は前年同月比-0.9%減少し、2カ月ぶりの悪化。物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた実質現金給与総額(実質賃金)は8月同-1.2%と6カ月連続の減少。

現金給与総額の推移(2010年1月~2019年9月)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

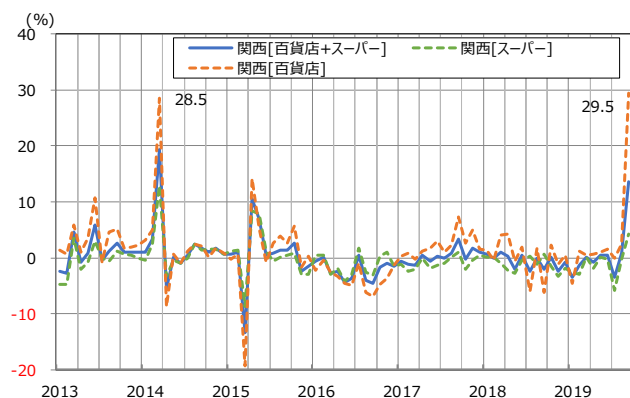
全国9月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+0.5%増加し、3カ月ぶりのプラス。内訳を見ると、所定内給与は同+0.3%、3カ月連続で増加。所定外給与は-0.2%と3カ月ぶりのマイナス。特別に支払われた給与は同+9.1%と3カ月ぶ

りに増加した。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた9月の実質現金給与総額は同+0.2%と9カ月ぶりに増加した。

(2) 大型小売店販売額

関西9月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,272億円となり、前年同月比+13.7%と2カ月連続で前年の水準を上回った。前回増税時前と比較すると、駆け込み需要は限定的といえよう。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2019年9月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

うち、百貨店は同+29.5%と、8カ月連続のプラス。スーパーの販売額は同+4.2%と4カ月ぶりのプラスだが、小幅にとどまった。駆け込み需要については、業態によって異なるようである。百貨店では、前回増税時前の駆け込み需要は同+28.5%で今回を幾分下回った。理由としては、国内消費及び免税による高額品の売り上げがプラスに影響した。また、昨年は台風による臨時休業、関西国際空港の閉鎖などがあっ

たため、その反動もあったため、大きな上振れとなった。一方、スーパーは増税直前になって一気に増加したが、規模は前回の増税時(+12.9%)に比較すると小幅であった。

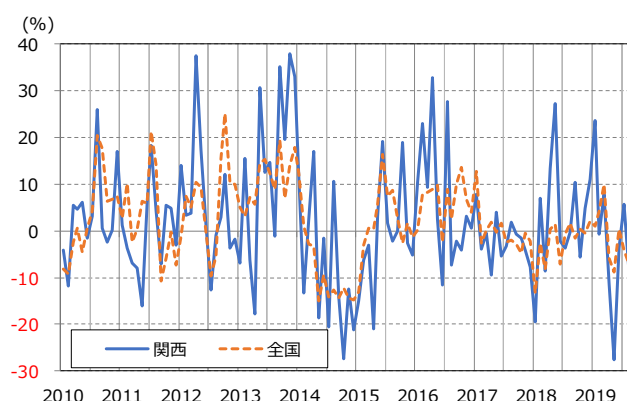
全国9月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆6,717億円となり、前年同月比+10.4%と2カ月連続のプラス。うち、百貨店は同+22.1%と2カ月連続のプラス。スーパーは同+5.4%と2カ月連続のプラス。関東は同+9.9%と、台風の影響を受け、全国の伸びを下回った。なお、小売業販売額指数(季節調整済、後方3カ月移動平均)は前月比+3.1%と2カ月連続のプラス。経済産業省は小売業の基調判断を「増加している」と前月から上方修正した。

【住宅投資】

(1) 新設住宅着工の動向

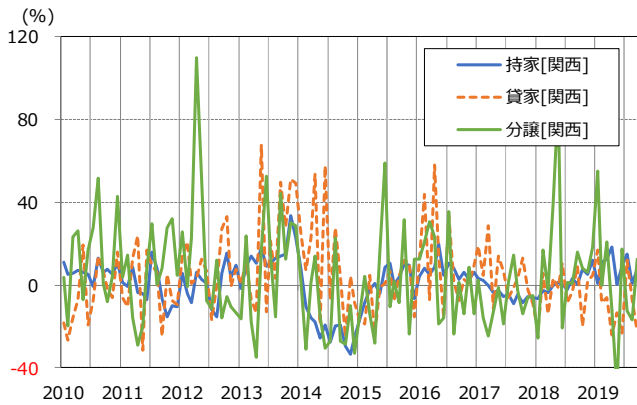
関西9月の新設住宅着工戸数は11,852戸となり前年同月比-5.5%と2カ月連続で減少した。利用関係別に見ると、持家と分譲は増加したが、貸家は大幅に減少し、全体を押し下げた。持家は3,290戸で、同+7.6%と14カ月連続の増加。分譲は4,337戸で同+12.7%と3カ月ぶりのプラス。うち、マンションは2,234戸となり、同+17.2%と3カ月ぶりに増加した。貸家は4,174戸で、同-22.8%と2カ月連続で減少した。貸家向けの融資の審査が厳しくなっていることが影響した。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年9月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月～2019年9月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

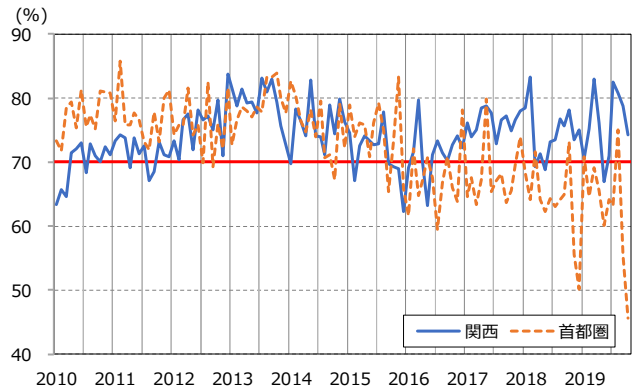
結果、7-9月期の新設住宅着工戸数は前年同期比-2.8%と、2四半期連続のマイナスとなった。うち、持家は同+7.7%で6四半期連続のプラスだが、貸家と分譲はそれぞれ同-6.7%(5四半期連続)、同-6.1%(2四半期連続)と減少した。

全国9月の新設住宅着工戸数は77,915戸となり、前年同月比-4.9%と3カ月連続の減少となった。利用関係別に見ると、持家は24,008戸(同-3.5%)と2カ月連続のマイナス。貸家は29,414戸(同-16.8%)と13カ月連続で減少し、全体を押し下げた。一方、分譲は24,029戸(同+14.1%)と4カ月連続の増加。うち、マンションは12,022戸(同+34.6%)で、2カ月連続の増加となった。

結果、7-9月期の新設住宅着工戸数は前年同期比-5.4%と、2四半期連続のマイナス。持家は同-0.6%と5四半期ぶりにマイナスに転じた。貸家は同-16.5%と9四半期連続のマイナス。分譲は同+8.2%と2四半期ぶりのプラスとなった。

(2) マンション市場動向

関西10月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は73.8%(季節調整値:APIR推計)と、前月から-4.5%ポイント減少し、3カ月連続のマイナス。しかし、好不況の境目である70%を5カ月連続で上回った。契約率を地域別にみると、京都市部(100%)、奈良県(100%)、滋賀県(83.3%)、大阪市部(74.1%)が高水準を記録した。一方、大阪府下(61.9%)及び兵庫県下(63.1%)は低水準であった。



(出所) 株式会社不動産経済研究所「マンション市場動向」

同月の首都圏のマンション契約率は45.6%(季節調整値:APIR推計)と台風の影響もあり、50%を割り込んだ。前月比では-9.8%ポイントと2カ月連続で低下した。

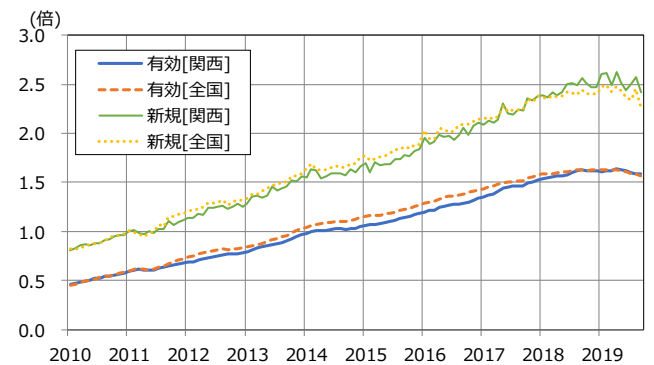
【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

関西9月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.59倍で前月比横ばい。内訳をみると、有効求人数は同+0.5%で5カ月連続のプラス。有効求職者数は同+0.6%で5カ月連続の増加。5カ月連続で前者の伸びが後者の伸びを上回った。

府県別に見ると、大阪府は1.77倍で前月比+0.01ポイントと、4カ月ぶりに改善。兵庫県は1.41倍、和歌山県は1.40倍と同横ばい。一方、滋賀県は1.30倍で同-0.05ポイント(2カ月連続)、京都府は1.58倍で同-0.03ポイント(3カ月連続)、奈良県は1.45倍で同-0.01ポイント(3カ月連続)と、それぞれ悪化した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月～2019年9月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2019年8月~9月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
8月	1.59	1.59	1.35	1.61	1.76	1.41	1.46	1.40
9月	1.57	1.59	1.30	1.58	1.77	1.41	1.45	1.40
前月差	▲0.02	0.00	▲0.05	▲0.03	0.01	0.00	▲0.01	0.00

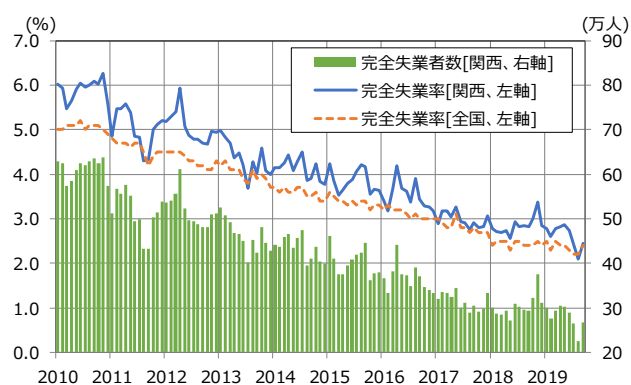
また、関西9月の新規求人倍率は2.42倍で前月比-0.15ポイント低下し、3カ月ぶりの悪化。内訳をみると、新規求人数は同-1.3%と3カ月ぶりに減少。新規求職者数は同+4.7%と3カ月ぶりに増加した。依然、新規求人倍率は高水準を維持しているが、新規求人数の減少には注視していく必要がある。

全国9月の有効求人倍率(季節調整値)は1.57倍と前月比-0.02ポイント減少し、2カ月ぶりに悪化。新規求人倍率は2.28倍で同-0.17ポイント低下し、2カ月ぶりに悪化した。

(2) 完全失業率の推移

関西9月の完全失業率(季節調整値：APIR 推計)は2.5%と前月比+0.5%ポイント上昇し4カ月ぶりに悪化した。完全失業者数(季節調整値：APIR 推計)は26.8万人で前月差+4.3万人と5カ月ぶりに増加した。労働力人口(季節調整値：APIR 推計)は、前月差-5.1万人と3カ月ぶりに減少。また、就業者数(季節調整値：APIR 推計)も同-9.6万人と3カ月ぶりに減少した。

完全失業率の推移(2010年1月~2019年9月)



(出所)総務省「労働力調査」

結果、7-9月期の完全失業率(季節調整値：APIR 推計)は2.3%と、前期比-0.5%ポイント減少し(4-6月期は前期比+0.1%)、2四半期ぶりに改善。完全失業者数は前期差-14.1万人減少し(4-6月期は同+2.6万人)、2四半期ぶりに改善した。

全国9月の完全失業率(季節調整値)は2.4%と、前月比+0.2%ポイント上昇し6カ月ぶりに悪化。完全失業者数(季節調整値)は167万人と同+13万人増加した。理由別では、「非自発的な離職」(36万人)は同横ばい、「自発的な離職(自己都合)」(69万人)は同+1万人増加、「新たに求職」(42万人)は同+9万人増加した。

【公共投資・建設工事】

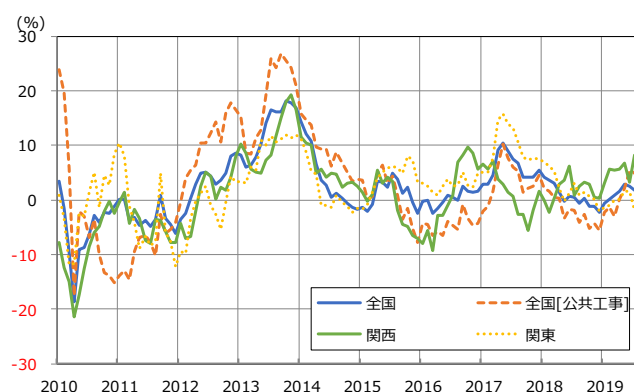
(1) 建設工事

関西9月の建設工事出来高は5,724億円となり、前年同月比+3.3%と19カ月連続で増加した。関東は1兆6,753億円となり、同-0.3%と2カ月ぶりに減少した。

結果、7-9月期の建設工事出来高は1兆6,700億円となり、前年同期比+5.1%と6四半期連続の増加。関東の建設工事出来高は4兆8,432億円となり、同-0.6%と2四半期ぶりに減少した。

全国9月の建設工事出来高は4兆7,824億円と、前年同月比+1.6%と8カ月連続で増加した。うち、民間工事は2兆8,280億円で同-1.8%と、55カ月ぶりにマイナスに転じた。公共工事は1兆9,544億円で同+7.0%と6カ月連続の増加。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2019年9月)



(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。(出所)国土交通省「建設総合統計」

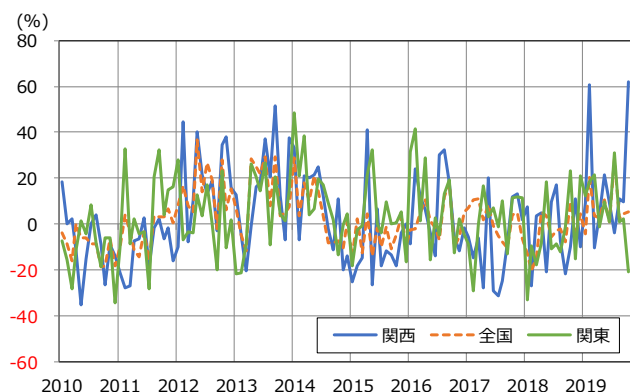
結果、7-9月期の建設工事出来高は前年同期比+2.1%と3四半期連続で増加した。うち、民間工事は同-0.5%と18四半期ぶりに減少した。公共工事は同+6.6%と2四半期連続で増

加した。今後、ダムや堤防の機能強化など台風 19 号による被害からの復興事業で公共工事が拡大すると見込まれる。

(2) 公共工事請負金額

関西 10 月の公共工事請負金額は 1,896 億円で前年同月比 +62.2%と、3 カ月連続の増加となった。季節調整値(APIR 推計)で見ると、前月比+71.6%と 2 カ月ぶりの大幅な増加となった。府県別に見ると、兵庫県前年同月比+29.1%、奈良県同 +23.1%、滋賀県同+21.8%、和歌山県同+13.2%、京都府同 +8.2%、大阪府同+5.4%と、すべての府県で増加していた。

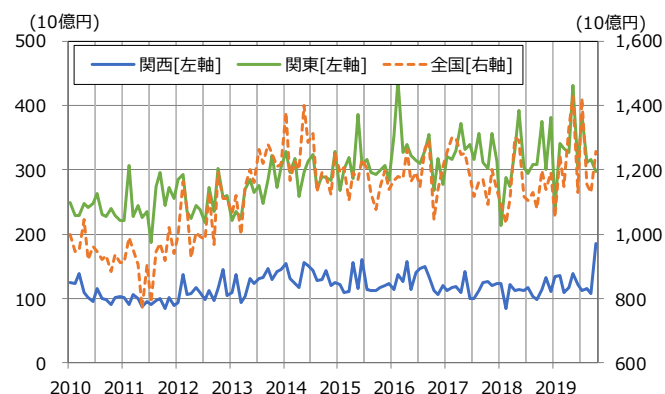
公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010 年 1 月~2019 年 10 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関東は 3,349 億円で前年同月比-20.8%と 6 カ月ぶりの減少。全国は 1 兆 3,480 億円で同+5.1%と 9 カ月連続で増加した。季節調整値(APIR 推計)で見ると、関東は前月比-6.1%と 2 カ月ぶりの減少、全国は同+11.3%と 3 カ月ぶりの増加となった。

公共工事請負金額(季調値)の推移(2010 年 1 月~2019 年 10 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

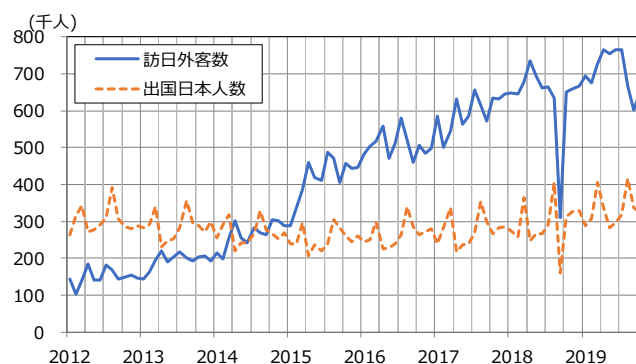
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

10 月の関空への外国人入国者数は 65 万 1,920 人となり、伸びは前年同月比+0.2%と小幅ながら 13 カ月連続のプラスとなった。昨年の自然災害の影響が剥落したため、10 月の伸びは大きく減速した。また、外国人出国者数は 65 万 6,080 人と同+2.8%で 12 カ月連続の増加。結果、外国人出入国者数は 130 万 8,000 人で同+1.5%と 13 カ月連続の増加となった。

日本人出国者数は 32 万 3,020 人で、前年同月比+3.4%と 13 カ月連続で増加した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012 年 1 月~2019 年 10 月)



(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

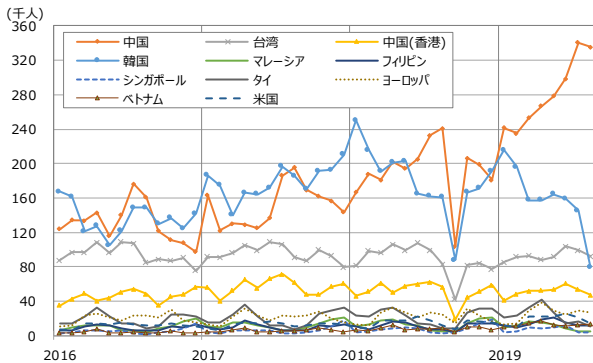
(2) 地域別訪日外客数

8 月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、中国(香港除く)からの入国者が 33 万 5,250 人(前年同月比+39.0%)と最多であった。次いで、台湾が 9 万 2,361 人(同+11.5%)、韓国が 7 万 9,616 人(同-50.4%)、香港が 4 万 6,907 人(同-17.1%)であった。中国は 11 カ月連続の前年比増加、台湾は 2 カ月連続の増加だが、香港は 2 カ月連続、韓国は 15 カ月連続で前年比減少した。なお、日韓関係悪化によりこれまで航空路線の運休・減便が続いており、更に 11 月に追加の減便が予定されている。今後の動向に引き続き注視する必要がある。

他のアジア各国は、ベトナムが 1 万 3,228 人(前年同月比 +50.6%)、フィリピンが 1 万 1,675 人(同+65.2%)、タイが 1 万 659 人(同+25.9%)、マレーシアが 5,036 人(同-2.6%)、シンガポールが 4,087 人(同+48.7%)、であった。

フィリピンは7カ月連続、ベトナムは11カ月連続二桁の伸びが続いており、堅調に推移している。アジア以外の他地域を見ると、欧州全体では2万7,119人(同+10.3%)、米国が1万4,090人(同+17.5%)であった。欧州全体は5カ月連続で、米国は11カ月連続で、二桁の伸びが続いており好調である。

地域別訪日外客数(2019年8月まで)



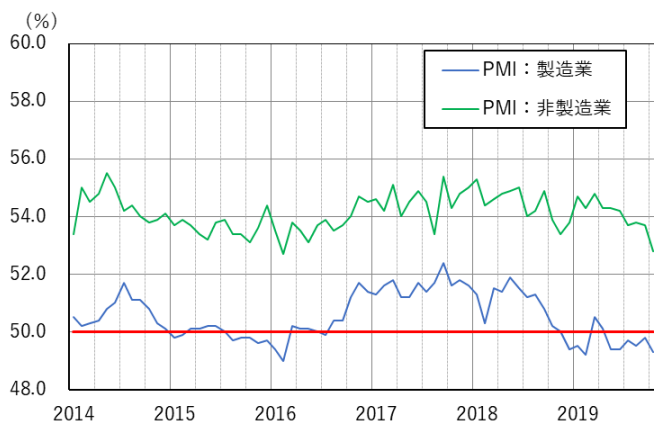
(出所) 法務省「出入国管理統計」

【中国景気モニター】

(1) センチメント

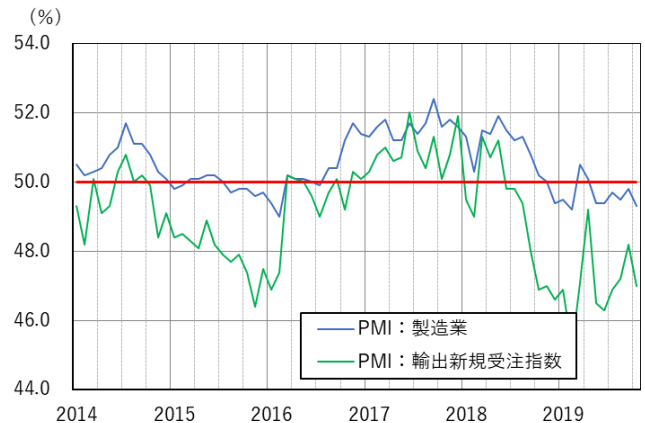
10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.3となり、前月比-0.5%ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化であった。6カ月連続で景気分岐点(50)を下回った。非製造業PMIは52.8となり、同-0.9%ポイント下落し、2カ月連続の悪化。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年10月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年10月)



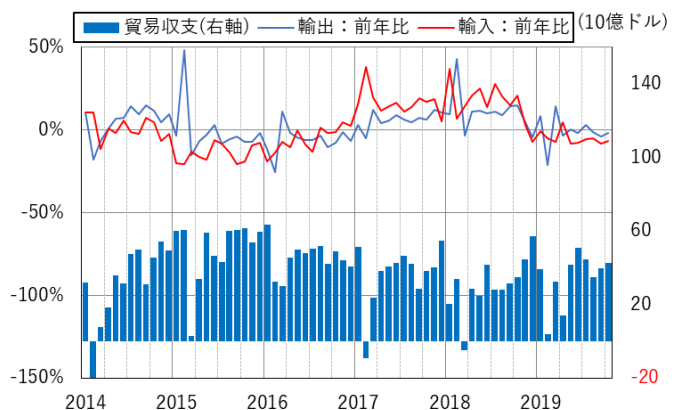
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

製造業 PMI のうち、生産指数は50.8と前月から-1.5%ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。輸出新規受注指数は47.0と同-1.2%ポイント下落し、4カ月ぶりの悪化。米国の制裁関税(3月公表、7月から実施)の影響を受け、18年6月以降17カ月連続で50を下回った。雇用指数は47.3と同+0.3%ポイント2カ月連続の上昇だが、31カ月連続で50を下回った。

(2) 貿易動向

10月の貿易収支は428.1億ドルで19カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,129.3億ドル、前年同月比-2.0%と3カ月連続の減少。輸入額は1,701.2億ドル、同-6.7%と6カ月連続で減少した。なお、貿易総額(輸出+輸入)は同-4.2%減少し、6カ月連続のマイナスとなった。依然、貿易活動は収縮している。

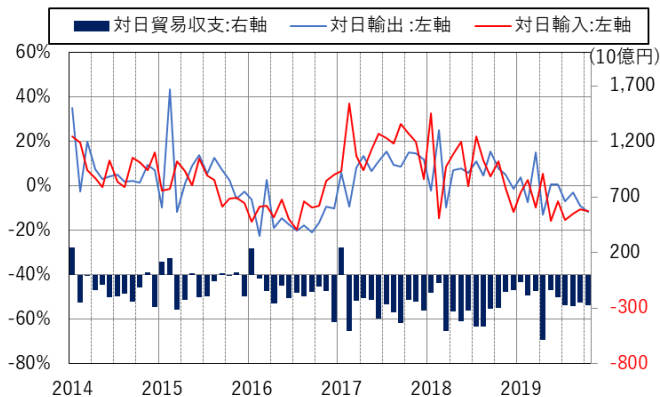
中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月~2019年10月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

また、対日貿易収支は-25.1億ドルとなり、33カ月連続の赤字となった。対日輸出額は116.3億ドルとなり、前年同月比-7.8%と2カ月連続の減少。対日輸入額は141.4億ドルとなり、同-7.3%で6カ月連続の減少。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同-11.7%と4カ月連続の減少。また、対日輸入額は同-11.1%と6カ月連続の減少である。

日本との貿易(円ベース, 2014年1月~2019年10月)

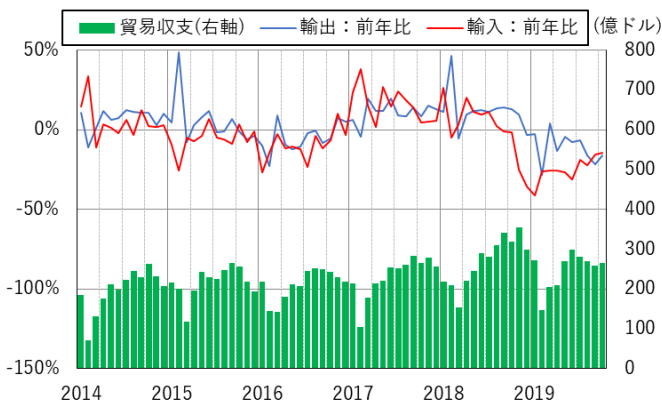


(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

[対米貿易]

10月の中国の対米貿易黒字は264.2億ドル(前月:258.9億ドル)となり、前年同月比-16.9%縮小した。4カ月連続のマイナス。同月の対米輸出額は357.9億ドルと同-16.2%で、7カ月連続の減少。また、対米輸入額は93.7億ドルとなり、同-14.3%と14カ月連続の減少であった。

対米輸出入の動向(2014年1月~2019年10月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

11月開催予定のAPEC首脳会議が中止したため、先月達成

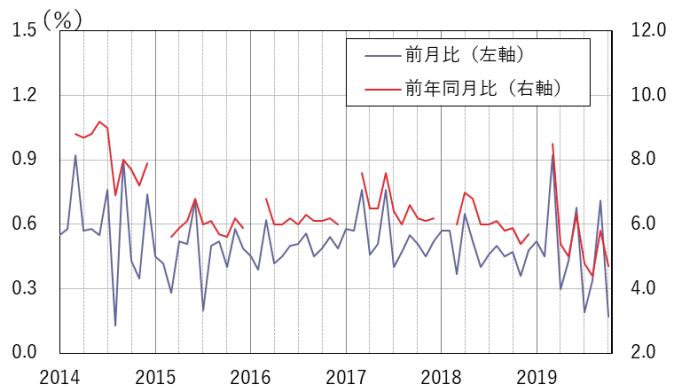
した米中貿易協議第一段階合意の調印は延期することになった。なお、第13回米中貿易協議終了後、中国商務部は「制裁関税の撤廃は第一段階合意の条件である」と言明した一方、トランプ米大統領が「中国と合意なければ関税をさらに引き上げる」と述べた。米中貿易協議の先行き不透明感が一層増した。

(3) 工業生産

10月の工業生産は前月比+0.17%上昇し、伸びは前月から-0.54%ポイント減速した。また、前年同月比+4.7%上昇し、前月から-1.1%ポイント減速した。

産業別に見ると、電気機械・機材製造業(前年同月比+10.7%)、有色金属圧延加工業(同+9.1%)、パソコン・通信設備製造業(同+8.2%)などが高い伸びを示す一方、金属製品製造業(同+3.1%)、通用設備製造業(同+3.1%)、化学原料・化学製品製造業(同+3.0%)、鉄道・輸送機器製造業(同+3.0%)などは比較的低調な伸びにとどまった。また、繊維工業と農業副食品加工業はそれぞれ同-1.3%、同-2.7%と減産した。

工業生産指数(2014年1月~2019年10月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

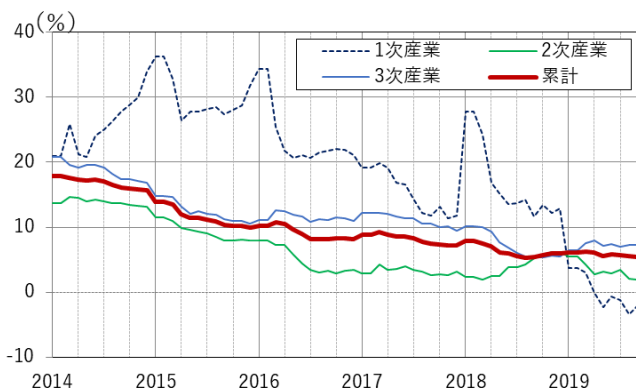
(4) 固定資産投資

1-10月期の累積固定資産投資(名目)は前年同期比+5.2%となり、1-9月期から-0.2%ポイント低下している。

産業別にみると、第1次産業は前年比-2.4%減少し、減少幅は前月から0.3%ポイント拡大した。第2次産業は同

+2.3%と増加幅は0.3%ポイント拡大した。第3次産業は同+6.8%で、増加幅は前月から0.4%ポイント縮小した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月~2019年10月)

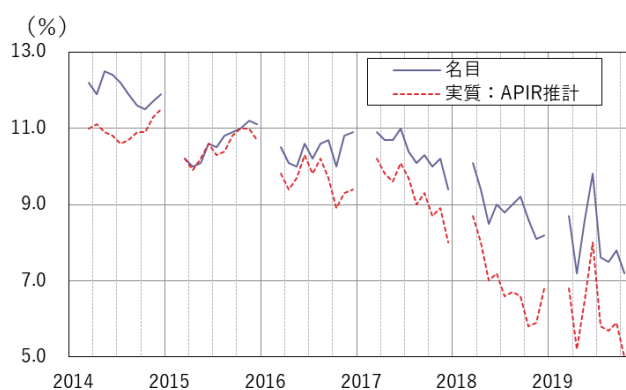


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

10月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+7.2%となり、伸びは前月から-0.6%ポイント縮小した。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR推計)をみると、伸びは同+5.0%と前月から-0.9%ポイント縮小した。11月には「双十一」という年に一度の大規模なセールを行うため、10月の消費を控えられたようである。

社会消費品小売総額(2014年1月~2019年10月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

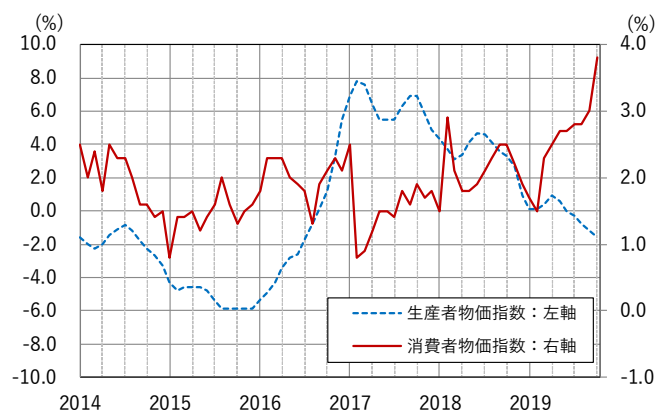
都市部の社会消費品小売総額の前年同月比は+7.0%となり、伸びは前月から-0.5%ポイント縮小した(2カ月ぶりの減速)。農村部の社会消費品小売総額は同+8.6%となり、伸びは前月より-0.4%ポイント縮小した(3カ月ぶりの減速)。

10月の電子商取引の社会消費品小売総額は9,070億円で、前年同月比は+17.0%と、伸びは前月より+0.4%ポイント拡大し、3カ月連続の加速であった。

(6) 物価水準

10月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+3.8%で、前月から+0.8%ポイント上昇した。うち、食品価格は同+15.5%上昇し、CPIへの寄与度は+3.05%ポイントであった。食料品のうち、肉類価格の継続的な上昇が見られている。豚肉価格は同+101.3%上昇、CPIへの寄与度は+2.43%ポイントであった。また、牛肉、羊肉、鶏肉、鴨肉とたまご価格は+12.3%~+21.4%の上昇となり、合計でCPIを+0.41%ポイント引き上げた。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月~2019年10月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

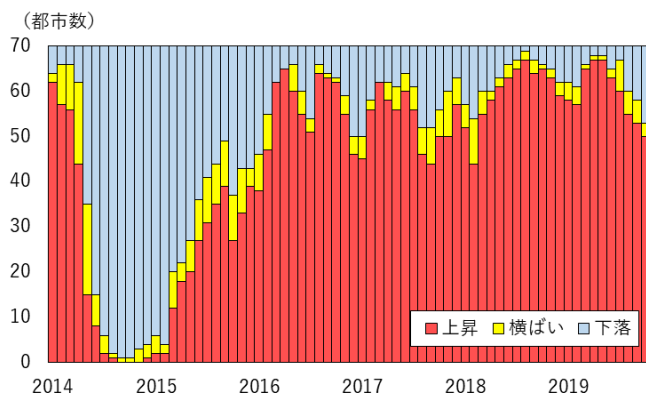
また、生産者物価指数(PPI)は、前年同月比-1.6%と4カ月連続のマイナス。伸びは前月から-0.4%ポイント縮小し、6カ月連続の減速となった。うち、生産財(生産資料)価格は同-2.6%下落し、前月から-0.6%ポイント減速した。消費財(生活資料)価格は同+1.4%上昇し、前月から+0.3%ポイント加速した。

(7) 不動産市場

10月の不動産市場は、低迷が続いている。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は50で前月から3都市減少した(5カ月連続)。

一方、下落した都市数は17で前月から5都市増加(2カ月連続)。また、横ばいの都市数は3で前月から2都市減少した。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~2019年10月)



(出所)中国国家统计局; CEICデータベース

Contact : 野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

Release Calendar for October/November

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
28-Oct	29-Oct	30-Oct 全国貿易統計 (8月:確報値) 全国貿易統計 (9月:確・速) 商業動態統計 (9月:速報値)	31-Oct 全国鉱工業生産指数 (9月:速報値) 消費動向調査(10月) 建築着工統計調査 (9月) 中国製造業 PMI (10月)	1-Nov 労働力調査(9月) 一般職業紹介状況 (9月)
4-Nov 振替休日	5-Nov	6-Nov	7-Nov 百貨店・スーパー販売状 況(9月:速報値)*	8-Nov 近畿地域 鉱工業生産動向 (9月速報)* 毎月勤労統計調査 (9月:速報値) 近畿圏貿易概況 (8月:確報値)* 近畿圏貿易概況 (9月:確・速)* 中国輸出入 (10月:速報値)
11-Nov 景気ウォッチャー調査 (10月) 中国 CPI&PPI (10月)	12-Nov	13-Nov	14-Nov 商業動態統計 (9月:確報) 中国固定資産投資 (10月) 中国工業生産 (10月) 中国消費小売総額 (10月)	15-Nov 公共工事前払保証額 統計(10月) 全国鉱工業生産指数 (9月:確報値) 中国不動産市場 (10月)
18-Nov マンション市場動向 (10月)	19-Nov 出入国者数(10月)* 建設総合統計(9月)	20-Nov 全国貿易統計 (10月:速報) 近畿圏貿易概況 (10月速報)	21-Nov	22-Nov 毎月勤労統計調査 (9月:確報値)
25-Nov 近畿地域 鉱工業生産動向 (9月速報)* 出入国管理統計 (9月) 中国輸出入 (10月:確定値)	26-Nov	27-Nov	28-Nov 商業動態統計 (10月:速報) 全国貿易統計 (9月:確報値) 全国貿易統計 (10月:確・速)	29-Nov 一般職業紹介状況 (10月) 労働力調査(10月) 消費動向調査(11月) 全国鉱工業生産指数 (10月:速報値) 建築着工統計調査 (10月)

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。